信頼される品質!
ダイカスト製品 製造・販売
ダイカスト金型 設計・製造
株式会社ティーティーコーポレーション
〒599-8266 堺市中区毛穴町59番地
TEL (072) 273-1518 FAX (072) 273-2118

ダイカスト新報

2021年3月30日
発行所／日本ダイカスト新報社
編集発行人／上島孝一
本社／〒530−大阪市北区紅梅町2番17号 0038 第8田渕ビル
TEL (06) 6354—9107 FAX (06) 6354—9108
●毎月30日発行 ●年間購読料10,000円

リョービ、グローバル生産へ
新規シャシー部品
タイは今月、中国は8月から

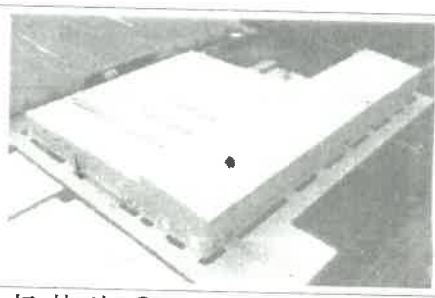
浦上彰社長

リョービ（浦上彰社長）は、今年から日本、アメリカ、中国、タイ、イギリスの5カ国で、シャシー部品と次世代車向け大型ダイカスト部品を本格生産する。そのための設備投資を、中国、タイ、アメリカの3拠点はすでに完了。残る日本とイギリスの2拠点は2021年度設備投資計画枠ですすめる。5拠点の総投資額は、87億円を予定している。アメリカは、シャシー部品を1月から、タイは、同製品を3月から生産をスタートさせた。

利優比圧鋳（常州）の投資内容は、敷地内に工場棟（床面積1万5,000平方㍍）を建設、3,500㌧ダイカストマシン1台と加工設備30台を設置。着工は、2020年7月で、2021年1月竣工。設備投資額は15億円。製品は、シャシー部品と次世代車向けトランスミッション製品。2021年8月からシャシー部品の生産を開始する。

リョービダイキャスティング（タイランド）の投資内容は、敷地内に工場棟（床面積8,600平方㍍）を建設、3,550㌧ダイカストマシン1台と加工設備9台とリークテスター等の増設。設備投資額は10億円。製品は、次世代車向けトランスミッション部品。2022年11月からの生産開始を予定している。

同社は、ダイカスト事業の今後の取り組みとして、次世代車向けの営業力と技術開発力の強化万針を打ち出している。今年度設備投資も前年実績比4億円増の171億円を予定。新規品向けに全体の63%、電動化、軽量化部品向けに32%を振り向ける。技術開発強化対象部品は、サブフレーム、インパネリインフォースなどボディ・シャシー部品とバッテリーケース、eアクスルケースなど電動化部品。


常州の新工場棟

右枠内が完成した新工場棟

ダイレクト21が発表
ランナー加圧の評価値
密度向上で鋳巣大幅削減を確認

ダイレクト21（神奈川県相模原市、岩本典裕社長）は、本紙第1063号（2020年7月30日付号）で紹介した「ランナー加圧装置」を使って実鋳造したアルミダイカスト製品の評価結果をこのほど発表した。新開発の「ランナー加圧」は、ゲートに向かって垂直方向に伸びるゲート底部から、スクイズピンで通常の鋳造圧力の約4倍（250MPa）で加圧するシステム。タイミングとしては、高速射出してから約0・1秒前後のゲート凝固前加圧となる。加重が2・64から2・70に0・07にアップ。密度向上で鋳巣8割以上の削減が確認できた。

同社では、今回の結果を受け、①大幅な鋳巣の低減②切削後の鋳巣不良の大幅削減と含浸レス③圧入圧力下げによるダウンサイジング等が期待できることから、「ランナー加圧法」が次世代のグローバル競争に打ち勝つ大きな武器になるとしている。今回のCT評価は、大手メーカー2社で行ない、ほぼ同じ結果が得られた。

圧タイミングが早いとバリが発生し、遅いとゲート凝固が終了する。絶妙の制御と逆流防止溝が新技術の最大のポイント。

使用ダイカストマシンは、350㌧機。高速と増圧の通常ダイカスト法での製品は、重量809g、製品厚さ37・42㍉、比重2・64。使用合金は、「ADC12」。

同じ金型を使い、「ランナー加圧」を加えると製品重量が833gに24g増加（2・97%アップ）、製品比重が2・64から2・70に0・07にアップ。密度向上で鋳巣8割以上の削減が確認できた。

ケージーケー
販売価格980万円に設定
新開発の小型バリ取りマシン

加藤裕也社長

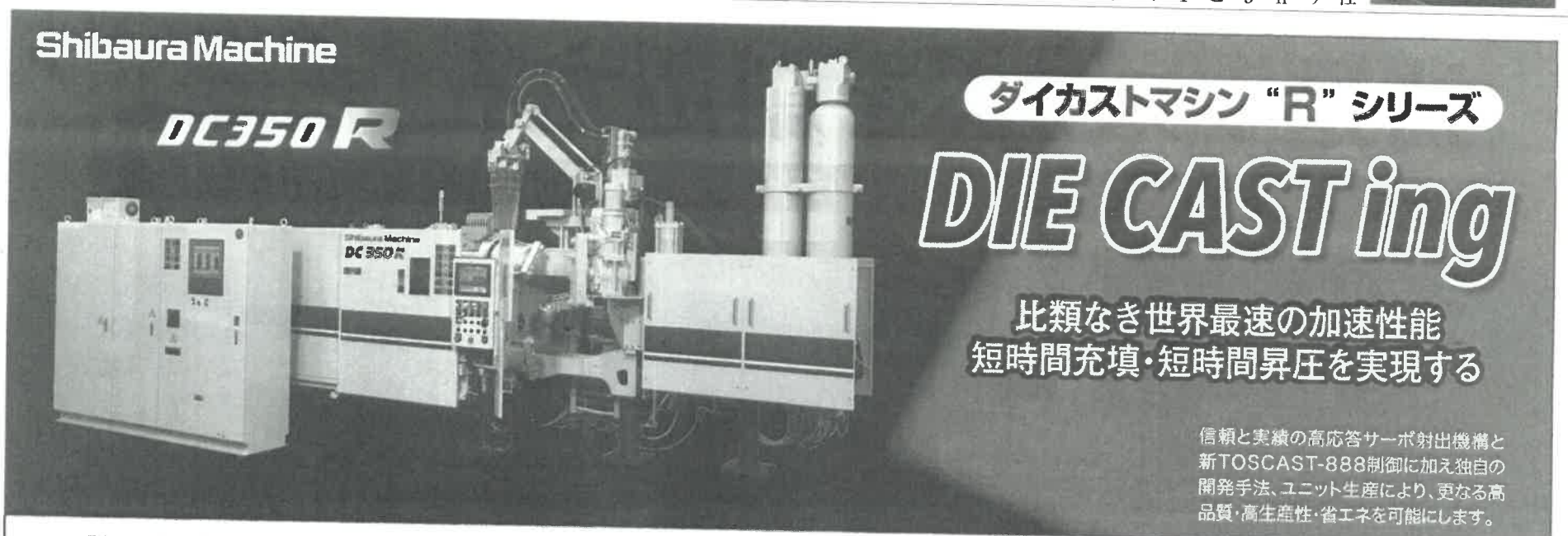
大型アルミダイカスト製品用バリ取りマシンの有力メーカーで知られるケージーケー（浜松市北区都田町、加藤裕也社長）は、新開発の小型バリ取りマシン（BariAnt）の本体販売価格を980万円に設定すると、このほど発表した。昨年1年間をかけ、中堅のアルミダイカスター約100社を対象に市場調査を行なったところ、要望の一位と二位がコンパクト化と低価格だったことから、それを反映させる形で新型マシンの開発を進めていた。ちなみに、同社のメーン機種の「BARIO-S」の本体価格は、1,300万円。同機の持つ剛性、高速高精度、確実性の特長性能を落とすことなく、購入部品の見直しと製作部品の内製化・簡素化を中心に低価格化を実現させた。

新開発機の設備サイズは、幅1,150㍉（BARIO-S1,380㍉）、奥行き2,240㍉（同2,500㍉）、高さ1,750㍉（同2,250㍉）、軸移動量は、X軸400㍉（同500㍉）、Y軸640㍉（同700㍉）。Z軸700㍉（同950㍉）。設置面積は、同比25%減。同機は実用新案申請中。

新開発機の対象マシンは、800㌧以下機で、対象ワークは、電動化・薄肉部品等を想定している。

初年度出荷目標は、15台で、2年度以降は、目標を20台としている。

新小型バリ取りマシン



お問い合わせ窓口
芝浦機械株式会社
成形機営業部 東日本営業課
東京本店/ 〒100-8503
東京都千代田区内幸町2-2-2 （富国生命ビル4F）
電話：(03) 3509-0244 FAX：(03) 3509-0332